

# 新生児聴覚スクリーニングを受け 学齢期に達した児童の現況

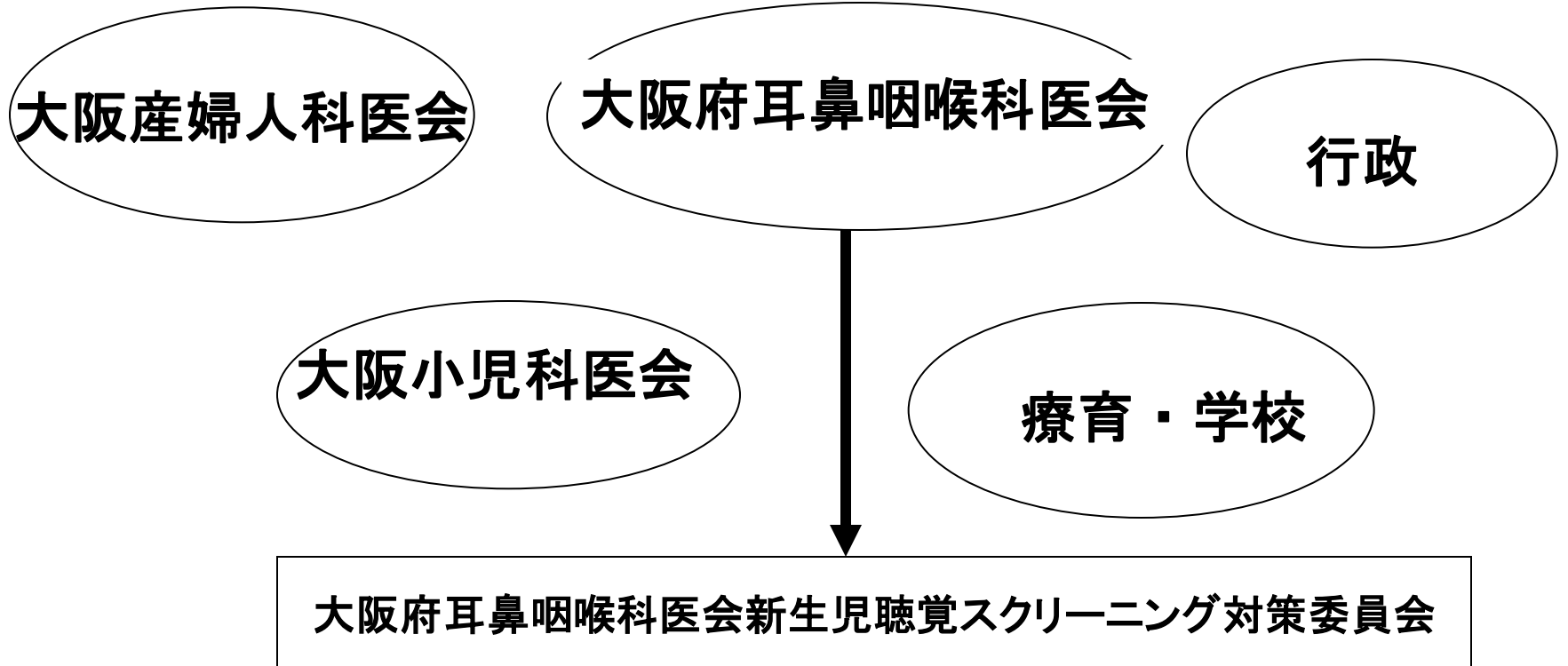
愛馬庸雅、大平真司、川寄良明、菊守 寛  
佐野光仁、高島凱夫、武市直範、玉城晶子  
遠山祐司、西村将人、松原謙二、武本優次  
田中英明、益田元子、伯井俊明、浅井英世

- 1997（平成9年） 我が国に新生児聴覚スクリーニング用AABR機器が導入
- 1998（平成10年） 厚生省により「新生児の効果的な聴覚スクリーニング方法と療育体制に関する研究」が開始
- 1998（平成10年） 当センターにAABR機器が導入。大阪府の産婦人科で希望がある新生児に対して新生児聴覚スクリーニング検査が行われ、精査目的で当センターに紹介される新生児が増加
- 1999（平成11年） 朝日新聞の第一面「新生児全員に聴覚検査、厚生省は5年以内に障害を早期発見、来年度まず5万人」の見出しをつけた記事掲載
- 2000（平成12年） 高度先進医療研究会において前日本医師会会長植松治雄先生が「新生児聴覚障害の早期発見、診断、療養ネットワーク作り—大阪府における地域保険システムの観点から」を発表
- 2001（平成13年） 植松治雄先生の指示で大阪府医師会新生児聴覚スクリーニング検討委員会が設置。同時に大阪府耳鼻咽喉科医会に新生児聴覚スクリーニング対策委員会が設置
- 2003（平成15年） 大阪府における新生児聴覚スクリーニング体制の構築
- 2006（平成18年） 大阪府における新生児聴覚スクリーニング検査マニュアルが完成

# 大阪府医師会



## 新生児聴覚スクリーニング検討委員会



# 新生児聴覚スクリーニング事業の課題

- ① 大阪府における新生児聴覚スクリーニング検査データの集積・有効性の検証
- ② スクリーニング検査費用の公的補助捻出
- ③ スクリーニング検査に対する保護者の心理への対応
- ④ 地域での聴覚障害児とその家族の心のケア

# 両側高度感音難聴児が発見されると

- ① 0～2歳 : 乳幼児教室
- ② 3～5歳 : 幼稚部教室
- ③ 6歳～ : 学齡期教室

# 乳幼児教室(0~2歳)

ぴよんぴよん教室(大阪府肢体不自由者協会)

寝屋川教室

池田教室

吹田教室

泉北教室

岸和田教室

あいあい教室(大阪府立堺聴覚支援学校)

ぴよぴよ教室(大阪府立生野聴覚支援学校)

大阪市聴覚特別支援学校早期教育

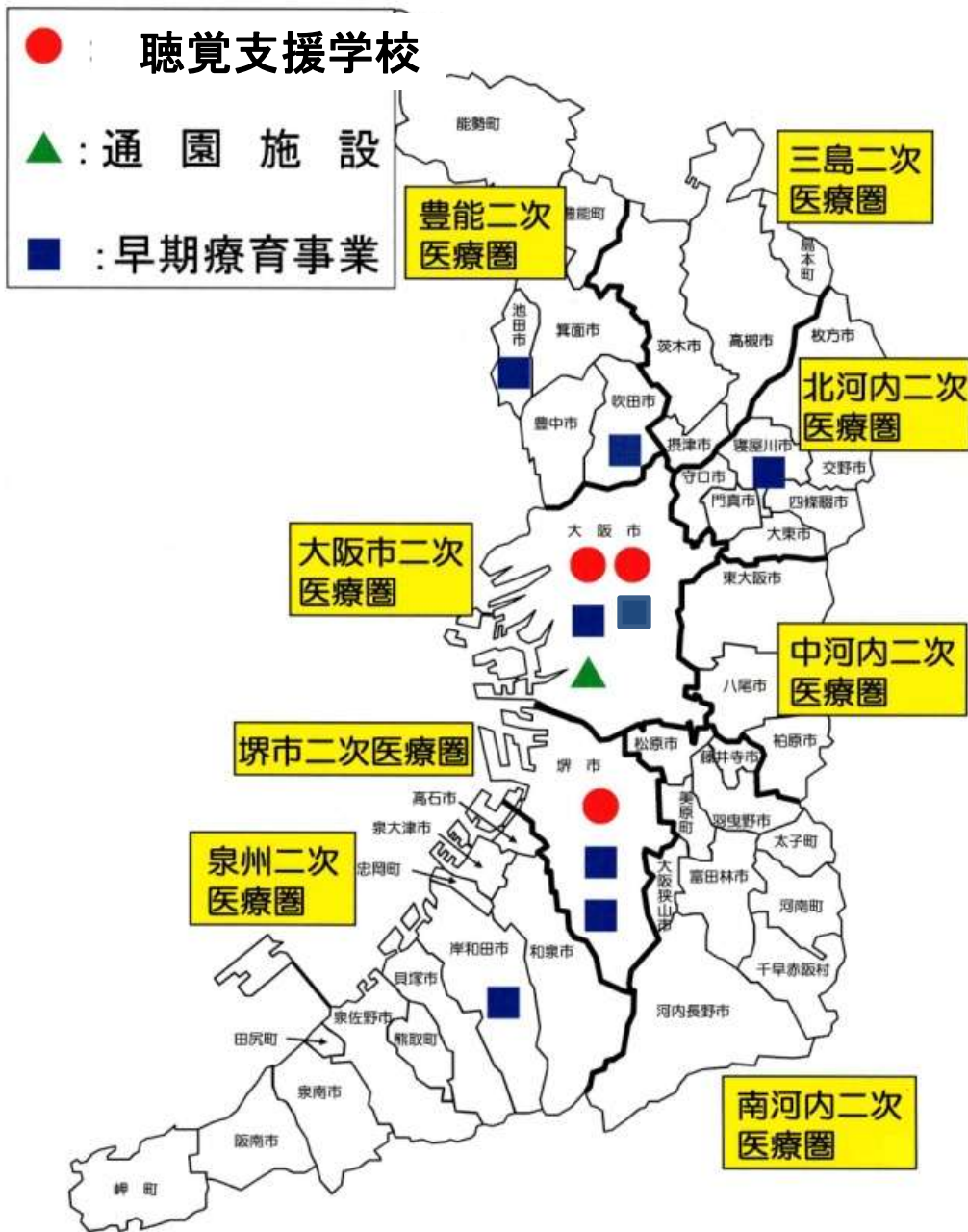
ゆうなぎ園(社会福祉法人愛徳福祉会)

# 乳幼児教室 (0~2歳)

● 聴覚支援学校

▲ : 通園施設

■ : 早期療育事業



ぴよんぴよん教室 ■

寝屋川教室

池田教室

吹田教室

泉北教室

岸和田教室

あいあい教室 ■

ぴよぴよ教室 ■

大阪市聴覚特別支援学校早期教育 ■

ゆうなぎ園 ▲

# 幼稚部(3~5歳)

大阪市聾学校幼稚部

大阪府立生野聴覚支援学校幼稚部

大阪府立堺聴覚支援学校幼稚部

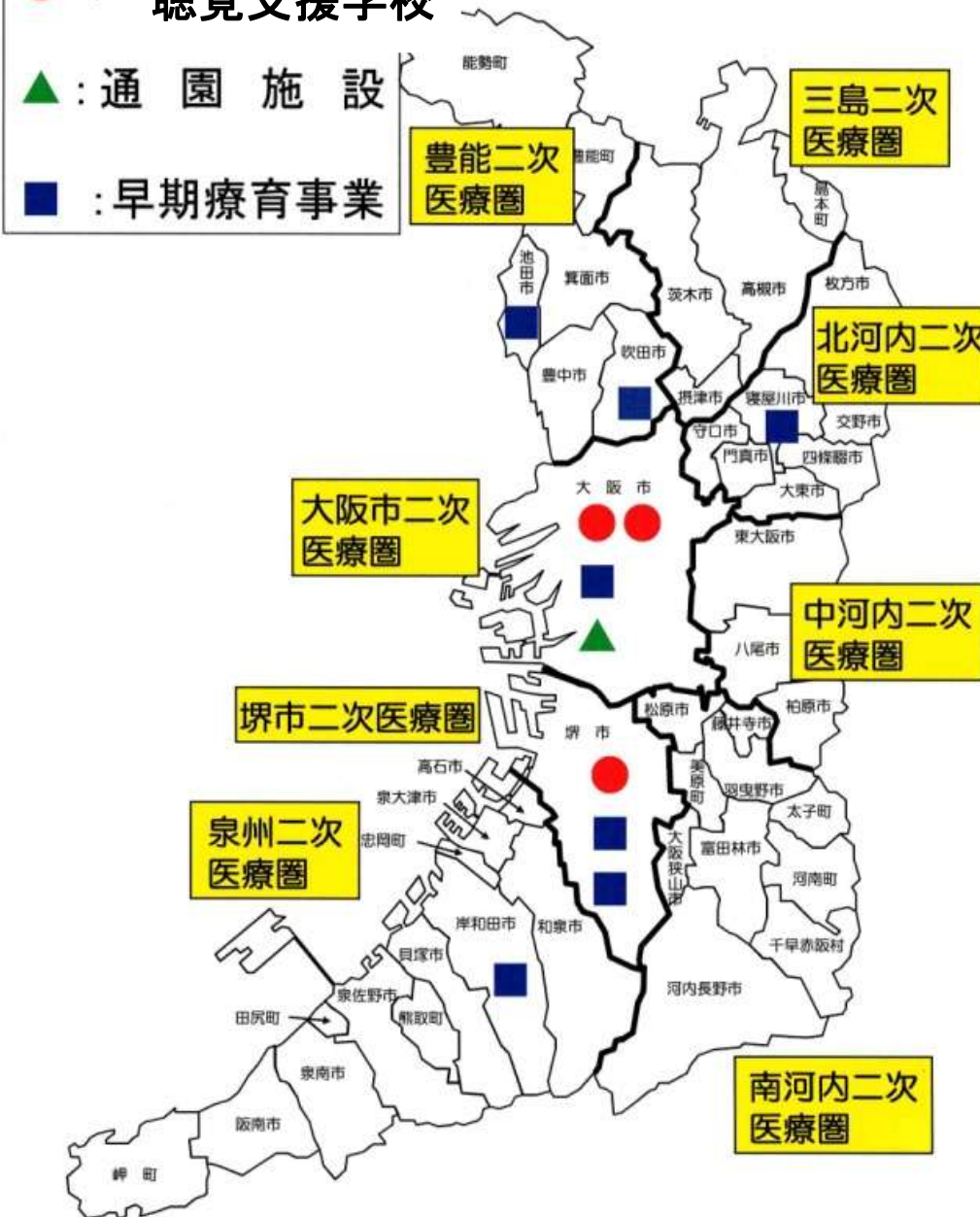
ゆうなぎ園(社会福祉法人愛徳福社会)



● : 聴覚支援学校

▲ : 通園施設

■ : 早期療育事業



## 幼稚部(3~5歳)

大阪市聾学校幼稚部 ●

大阪府立生野聴覚支援学校幼稚部 ●

大阪府立堺聴覚支援学校幼稚部 ●

ゆうなぎ園 ▲

# 学齡期(6歳～)

**大阪市立聾学校**

**大阪府立生野聴覚支援学校**

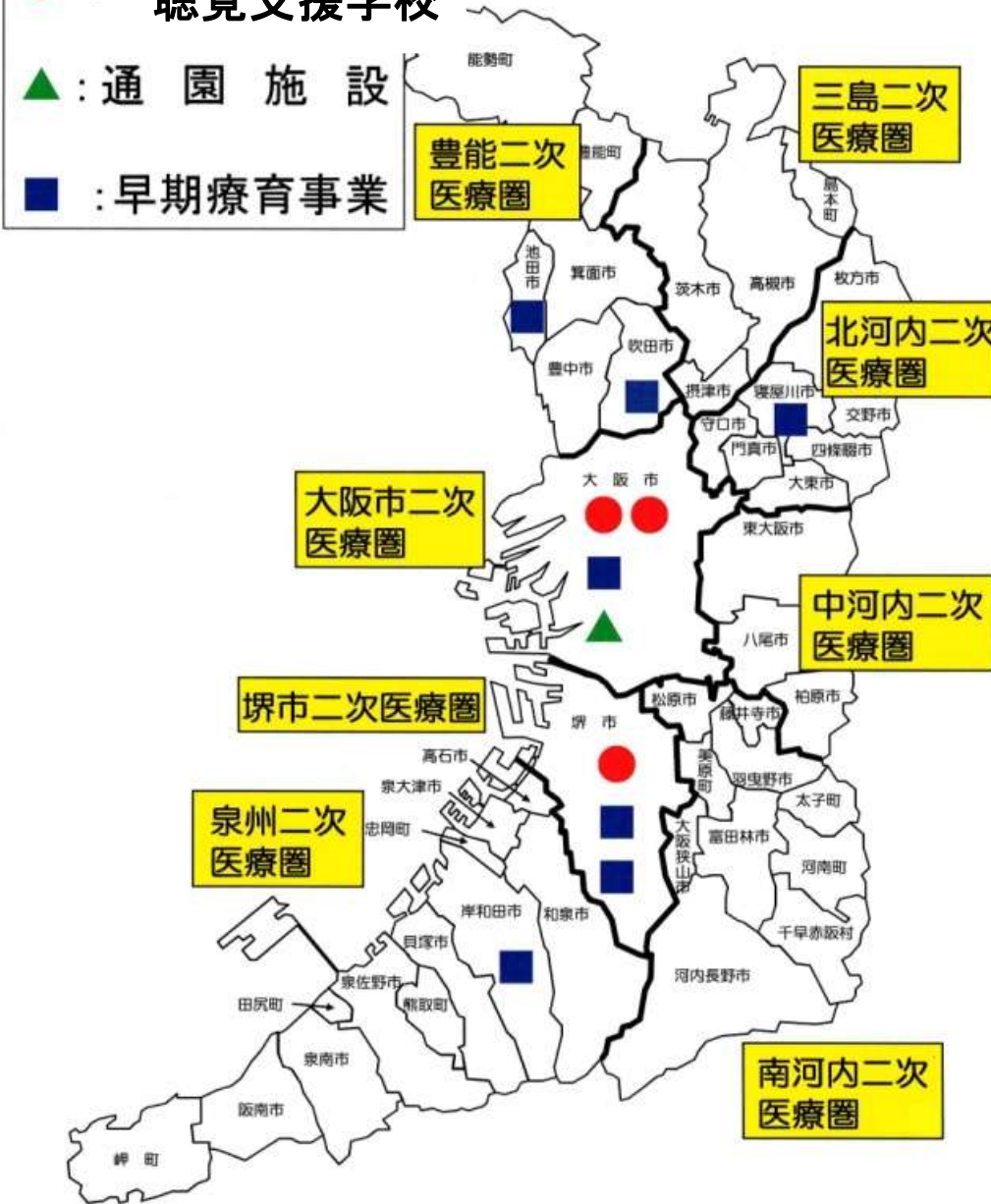
**大阪府立堺聴覚支援学校**

**地域の学校 通級**

● : 聴覚支援学校

▲ : 通園施設

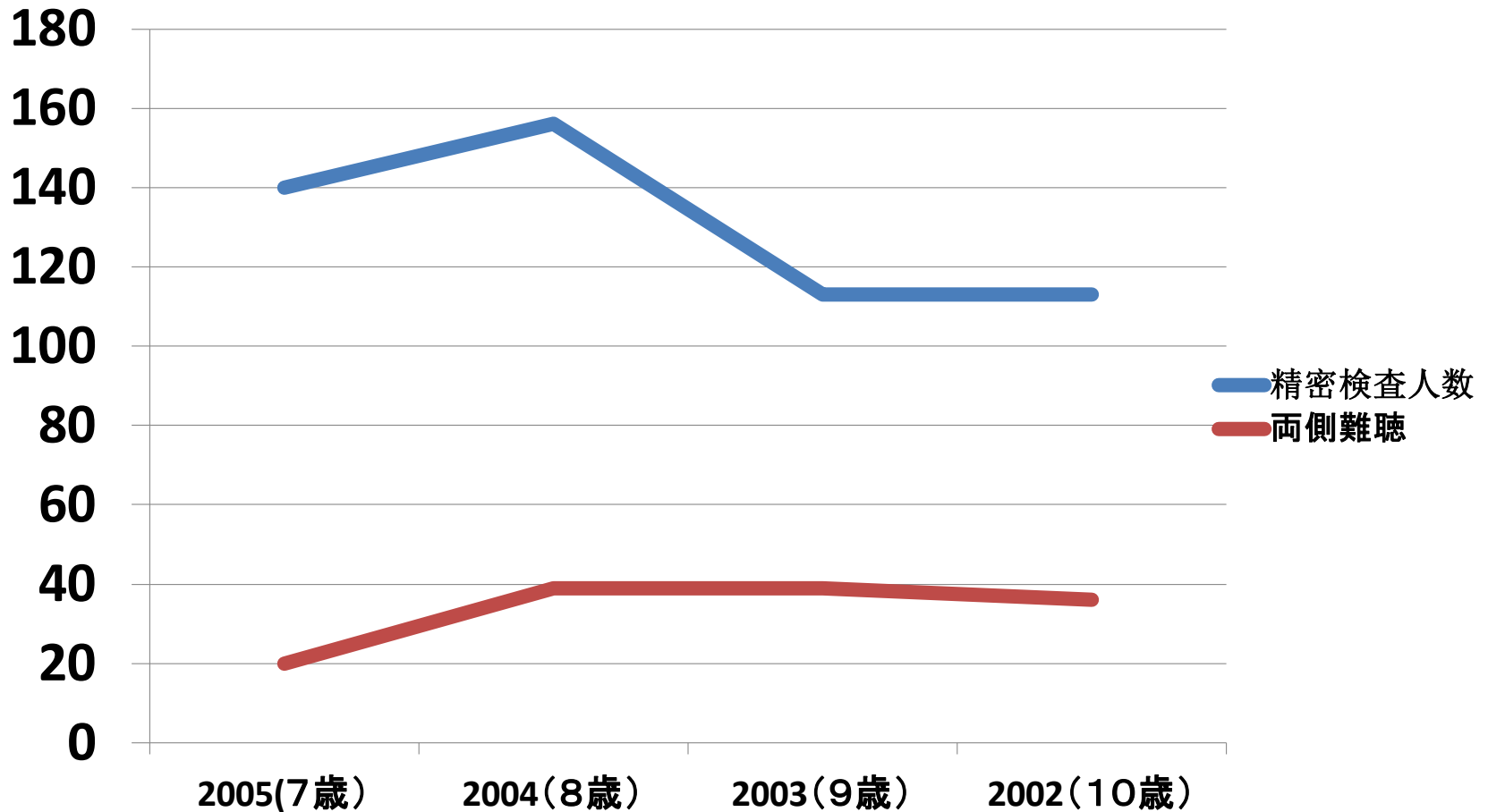
■ : 早期療育事業



# 学齡期(6歳~)

- 大阪市立聾学校 ●
- 大阪府立生野聴覚支援学校 ●
- 大阪府立堺聴覚支援学校 ●
- 地域の学校 通級

# 精密検査人数と両側難聴例 (大阪府立母子保健センター)



# 年齢別進路



# まとめ

- ①精密検査を必要とする児童は増加している
- ②難聴児の学齢期の進路は地域の学校への通学が増加する傾向にある。
- ③聴力障害を持った重複障害の児童が増加している。
- ④今後さらに新生児聴覚スクリーニングのデータの集積・解析が必要となり、事業の有用性の検証が必要。